

《2018年3月（通算259回）月例会報告》

\*\*\*\*\*

# ドイツ生まれのボール教室 「バルシューレ」の展開と可能性

福士 唯男

(株)アスリートプランニング バルシューレ事業部

\*\*\*\*\*

【日時】2018年3月20日（火）19:00～21:00（終了後は「景宜軒」～23:30）

【会場】筑波大学附属高校 体育館大アリーナ&ミーティングルーム

（〒112-0012 東京都文京区大塚 1-9-1）

【テーマ】ドイツ生まれのボール教室「バルシューレ」の展開と可能性

【演者】福士唯男（株）アスリートプランニング バルシューレ事業部

【コーディネーター】安藤裕一（株）GMSS ヒューマンラボ

【参加者（会員・メンバー）7名】

安藤裕一（株）GMSS ヒューマンラボ、梅本嗣（会社員）、加納樹里（中央大学）、岸卓巨（日本スポーツ振興センター）、中塚義実（筑波大学附属高校）、守屋俊秀（世田谷区サッカー協会）、山内直（浦和レッズ）

【参加者（未会員）6名】

菊地美里（ヨガインストラクター）、糺正勝（インタースポーツ）、福士唯男（アスリートプランニング）、守屋佐栄（フランスW杯へ行くぞ、なでしこ）、諸澄孝宜（理学療法士）、渡邊明志（筑波大学附属聴覚特別支援学校）

注）参加者は所属や肩書を離れた個人の責任でこの会に参加しています。括弧内の肩書きはあくまでもコミュニケーションを促進するため便宜的に書き記したものであり、参加者の立場を規定するものではありません（ご本人の了解が得られた範囲で公開しています）

【報告書作成者】菊地美里

【目次】

第1部 バルシューレ体験

第2部 講演

- |                        |         |
|------------------------|---------|
| ①はじめに                  | ⑦理論     |
| ②演者自己紹介                | ⑧国内の展開  |
| ③バルシューレについて            | ⑨体力測定動画 |
| ④ドイツとブラジルサッカー比較        | ⑩中国展開   |
| ⑤ドイツにおけるバルシューレの役割、システム | ⑪まとめ    |
| ⑥バルシューレと発達段階           | ⑫質疑応答   |

## 第1部 バルシューレ体験

運動ができる軽装に着替え、ほぼ全員が定刻に揃って集合。

まずは立位で個人がボールを自分の身体の頭の高さで右回り左周り1周、同様に腰の高さ、足元などで実施してウォームアップ。ここからは次々と各種の遊び動の要素を取り入れたバルシューレの運動を行った。

列挙すると以下の通りである。

全員で円になり、二つのボールを猫とネズミに想定して、猫がネズミを追いかける追いかっこ(写真1)。一人ずつボールを持って真上に投げ上げて時計回りに移動して隣のボールをキャッチ(写真2)。

二人ひと組となり投げる人は相手に二つのボールの一度のパス(写真3)。同じく二人ひと組で一つのボールは手で、もう一つのボールは脚で交互にパス(写真4)

キャッチする代わりに持っているバレーボールで飛んで来たボールを相手に跳ね返す(写真5)

ボールを真上に投げてから目を閉じ、ボールの落下時間を予想してから、開眼してキャッチ。二人組でのパスキャッチは、後ろ向きとしたり、など、楽しみの要素がそれぞれ含まれている。



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5

4大陸鬼ごっこは、逃げ手は最初はボールがない状態から、手でドリブル、脚でドリブル、手で転がすというように、ボールを持たない鬼に少しずつ有利な条件に変化(写真6は逃げ手が手でドリブ

ル、写真7は逃げ手がボールを転がしている) (一つのゲームでも条件をいろいろと変化させることが出来るのがバルシューレの特徴の一つ)



写真6



写真7

動く的にボールを充てる的当て、写真8は転がるバランスボールが的、写真9は空中のテニスボール(矢印)が的でかなり高度、写真10はコーンの間を走る左端の人が的である。



写真8



写真10



写真9



写真11

走りながらテニスボールをミニコーンでキャッチ (写真 11)。これを利き手、あるいは利き手でない方にコーンを持ち変えて行う。

二組に分かれて行う対戦型では、まずボールでコーンを相手側の陣地に倒す陣取りゲーム (写真 12)、そして自分の陣地にあるボールを相手側に投げる (写真 13)あるいは蹴り出すお掃除ゲーム (写真 14)、中央のバランスボールにボールを投げて (蹴って) 当てて相手の陣地のゴールラインを割らせるゲーム (写真 15)

最後の片付けも、遊びの要素を取り入れ、移動するボール籠を狙ってボールを投げ入れる (写真 16) 参加者は心地よい汗をかき、見学者も楽しめた実技編は約1時間行い終了した。



写真 12



写真 13



写真 14



写真 15



写真 16

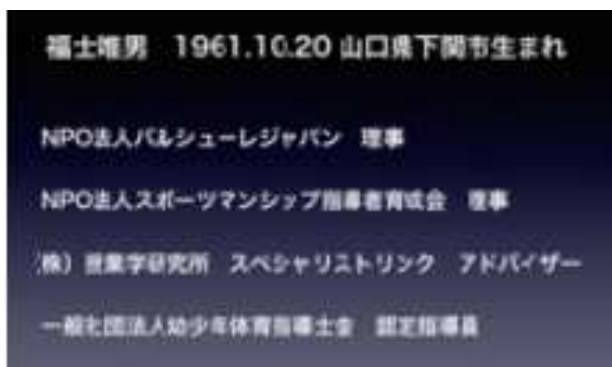
## 第2部 講演

### 1. はじめに

バルシューレはドイツで生まれたボール教室です。このバルシューレの今後の日本の展開と海外の展開を説明していきます。

ハイデルベルク大学スポーツ研究所のロート先生が発案されたボール教室です。ハンドボール部出身。今年定年。大学は退職されるが、スポーツ研究所で研究は続けられると伺っています。

### 2. 演者自己紹介



1961年10月20日、山口県下関で生まれましたが、3歳の時に宮城県仙台市に行き、小学校6年からは東京で生活しています。先ほど紹介しましたがバルシューレジャパンの理事をしております。あともう一つ、NPO 法人スポーツマンシップ指導者育成会の理事をしています。(株) 授業学研究所スペシャルリンクアドバイザー授業学研究所は先生を指導する機関です。教室への入り方。生徒への話の仕方等をやっています。そのホームページの中にスペシャルリンクという、先生から質問があった場合にお答えするコーナーがあって、そのアドバイザーをしています。教員免許も持っているのので体育に関する質問を受けることをやっています。またバルシューレ自体が幼少年向けのプログラムなので日本発育学会の傘下の一般社団法人幼少年指導士会認定指導員をやっています。

スポーツ歴は、1961年生まれですからスポーツ少年団みたいなものはなかったです。左利きだったのでたまにかりだされて野球にいったくらいです。今の子どもたちのような活動はしていなかったです。中学に入学して部活を通したスポーツがはじまります。最初バスケットに誘われましたが、上下関係が苦手だったので即日やめました。2学期からハンドボール部に入部。中学3年で都大会に出場し、ベスト8までいきました。顧問はハンドボール未経験なため指導は全く受けなかったのですが、そこが自分の伸びた良い時期だったのかなと思います。ベスト8だったので欲を出して高校で本格的に頑張ってみようと思い、拓殖大学第一高等学校に進学、そして大学、実業団でも10年ぐらいハンドボールをやっていました。引退後、ビーチハンドボールの活動をしている中、第1回ビーチハンドボール世界選手権があり、日本チームの監督になった。海外に行けるとワクワクしていたら開催地が秋田でした(笑)。“世界”選手権ですが、写真は秋田です。

そのあと地元の小学校でハンドボールをやっているチームの指導をし、女子のチームが優勝したのですが、全国大会での光景に衝撃をうけました。多くの子どもたちがリモコンで操られているような状態だったのです。これはなんとかしなくてはと思い、最終的にバルシューレに行き着いた。これならば楽しみながら運動に親しむことができるだろうと考えたからです。

### 3. バルシューレについて



バルシューレはドイツ語です。ボールはバル。教室はシューレ。英語ではボールスクール。バルシューレのプロジェクトはボールスクールプロジェクトとして世界に発進しています。

生まれたのはハイデルベルク大学ですが、もともとハイデルベルク大学は医学系の大学で、あまりスポーツとは縁のない大学でしたが、スポーツ科学研究所の発足により、ボール競技やボール運動に関する研究が行われるようになりました。ドイツも体力健康問題が国の問題となってきました。ドイツの子どもたちがスポーツクラブに通っている比率は60%と非常に高い。授業に体育がなく、運動したい人はスポーツクラブに行くという習慣です。

ところで、WHO が推奨する運動時間は中程度の運動を1時間以上なのですが、世界の7割くらいはその推奨に従うことができていない。ドイツも同様。スポーツクラブは週に1回か2回で1~2時間、それ以上何も運動していない。日本も同様です。やっている子はサッカーやバスケットを一生懸命やっていますが、それは一部であって、国全体としては足りていません。

### 4. ドイツとブラジルサッカー比較

ドイツも現在はスマホをいじっている時間が長いことによる健康への懸念とともに、もう一つ大きな問題がありました。前回のワールドカップこそドイツは優勝しましたが、それ以前、1990年代後半から2000年は、優勝候補といわれながらもなかなか勝てず、1次リーグで敗退していました。

そこでドイツのサッカー連盟は、何が南米と違うのか比較研究しました。実は当時、練習法は大人が仕込んだ練習をひたすらやり、フィジカルの高いメンバーが代表に選ばれるためフィジカルトレーニングばかりしていました。一方のブラジルは、そもそもトレーニングをしていない。ストリートで遊びながらサッカーをしている。そこに差を見つけます。「ドイツの子どもたちは遊びが足りない」。そこで遊びを取り入れることが重要となり、バルシューレが生まれるきっかけとなりました。現在バルシューレは、ドイツサッカー連盟の推奨となっています。

### 5. ドイツ国内におけるバルシューレの役割、システム

ドイツでバルシューレがどのように担われているのかというと、6~7歳(小学校1,2年生)はバルシューレの基礎をやります。8歳くらい(小学校中学年)は打ちかえし方ゲーム、ゴール型ゲームという要素が加わります。そして10歳くらいでやっと専門種目を開始するようになります。小学校中学年くらいでバルシューレを経験した後に、指導者が子どもたちにアドバイスします。テニスをやったほうがいいのか。向いているよといったアドバイスはしますが、本人が何をするかという

のは自由選択です。無理に勧めません。

質問：(スライドの) Torsch は日本語で何のことですか？

福士氏：ゴール型のゲームです。

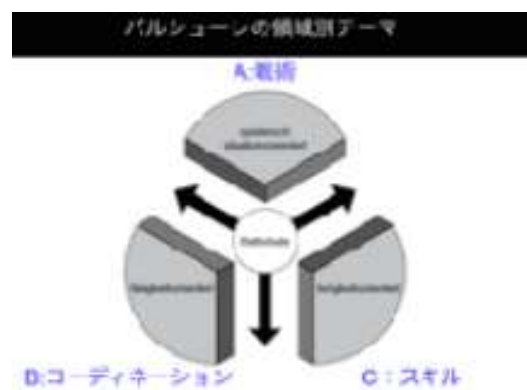
質問：Wurfs は？

福士氏：「投げる」です。うえ（トップ）を目指すところはそれぞれに分裂していくということです。

現地の指導者講習会に行くとそれぞれのトップチームのアンダーカテゴリでみんな資格を取りに来ています。それ以外でもダンス教室やヨガの先生、ありとあらゆるジャンルの人が取りに来ています。トップリーグとは関係ない人たちも資格を取りに来ています。

日本の小学校の学習指導要領ではゴール型、ネット型、ベースボール型がありますね。ドイツにはベースボール型がないため、日本ではバルシューレをベースボール型にどう導入するかが課題と言われています。日ハムコーチが北海道で資格とられていて、その分野の開拓に入っています。DeNA さんも興味を示しています。

ドイツでは肥満児向や ADHD 向けのバルシューレプログラムがあります。ハイデルベルクは敷地内にある病院と提携して、カウンセリングを受けながら勉強することを可能にしています。サッカーを強くしたいという目的で開発されたバルシューレですが、こちらのプロジェクト（健康でない子どものための利用）の方が進んできているようです。



## 6. バルシューレと発達段階

人間はそれぞれ発達ステージがあって、初歩的なことから難しいことに、下から上に進んでいくというスタイルで人が育っていくのですが、バルシューレの場合も、ベビー、ミニ、そしてバルシューレと進んでいきます。

バルシューレはもともと小学生向けのプログラムです。バルシューレの下にミニと、3歳以下のベビーがあります。発達段階に応じた学習項目というのがあって、それに沿ってどんどん上がっていく。もともと入ってきたのが小学生のバルシューレの部分、さっき実技でやったゲーム形式のものです。指導者の言葉で覚えるのではなく、体で覚えるということがメインに置かれていますが、その目標に向かうためにベースの土台作り初歩的なことから、お遊びになって本格的なものになっていくという段階があります。

(ベビーバルシューレ実技の動画)

大人があまり関与しないで子どもたちが興味を示すもののお手伝いをしてあげる。応答型というの

ですかね。子どもたちが求めるものに応じてあげる。そんなやりかたです。

(ミニバルシューレ実技の動画)

次が幼稚園ですね。日本でいう。一般的な体操教室のサーキットトレーニングのなかでボールを扱っています。重要なのは、サーキットしているときに物語を作ったりすることがあるのです。高い所に登るのも山登りしているイメージとか、面白いのは消防隊の出動だ、火を消しに行くぞ、など。一つの動作にこだわらないで多様な動きをしましょうということです。トランポリンでとぶ。回る。リングのジャンプ、のぼる、おる、ボール転がす、シュート、ボール持ちながら平均台を渡るという、色々なスキルが求められます。

(次の動画)

ビデオでは体育館が白い幕で仕切られていますが、すべてオープンにするとこの3倍くらいです。特徴は、大学生の専属体育館ではなく、市民も平等に使えるということです。ボールあての鬼ごっこをしていましたけれど、アップが終わった後で全体が3分割されて、ボルダリングやるチームとバスケットのシュートをするチームとマット運動をするチームに分かれます。バルシューレすることですべてが補われるとは思っておらず、いろんなことを経験しましょうということで、スイミングスクールとコラボしたり、アウトドアのスポーツとコラボしたり、とにかくいろんな動きを経験させています。ボルダリング用の壁も、使わないときは上からスイッチ一つで幕が下りてきます。

ハイデルベルクでバルシューレをやっている子は、どちらかというと普段運動をしていない子どもたちですね。既存のスポーツクラブに行くような子たちではありません。この写真では、どちらかというとハードに動いています。走り込み中心ですね。あとはサッカークラブのアンダーカテゴリでバルシューレをしています。こんな構造で展開しています。

## 7. 理論

バルシューレは、「戦術」「コーディネーション」「スキル」の3つのカテゴリー（領域）から成り立ちます。例えば「戦術」については、子どもたちは別に戦術とは思っていないのですが、遊びながらプレー力というか相手のかかし方とかスキをつくとかを学んでいきます。そのために、今日最初に行ったボール使ったようなトレーニング、つまりボールのコントロールを行います。

バルシューレを構成する三つの領域には、それぞれ50種類くらいずつトレーニングがあるので、トータル150種類ほどの動きが準備されています。日本で紹介しているのは150種類くらいですけど、実際にドイツでは日本にない道具を色々使ったりしていますので、200種類近くあります。そういったものを使いながら年間のプログラムを立てていくという構造になっています。

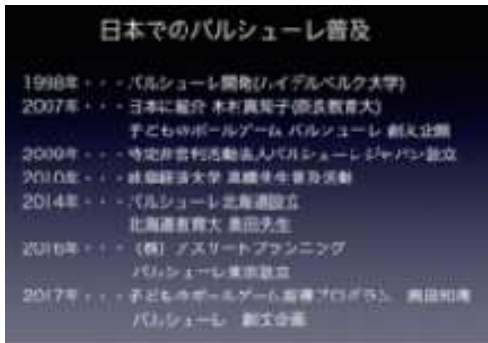
復習になりますが、バルシューレの学習目標領域は、

A 戦術: プレイ状況を重視した学習、ゲーム形式でおこないます。

B コーディネーション: ボール調整力を高める学習

C 技術 (スキル): 基礎的ボール操作技術の習得ということです。





## 8. 国内の展開

<日本のバルシューレの普及>

- 1998年 … バルシューレ開発
- 2007年 … 木村真知子先生が日本に紹介するのですが、お亡くなりになってしまいます。
- 2009年 … 特定非営利活動法人バルシューレジャパン設立
- 2010年 … 岐阜経済大学 高橋正紀先生の普及活動  
独自で大学や岐阜の地域のクラブ活動の指導者を育てています。
- 2014年 … バルシューレ北海道設立 北海道教育大 奥田先生  
学校の予算でやっている素晴らしい学校です。バルシューレを論文発表して認知させようという活動をしていて、学校の体育館にモニターがついていて子どもたちが1年間でどのように変化していくかを全て記録しています。学会発表もされています。年に数回ハイデルベルクにも行って新しい情報も結構入ってきています。
- 2016年 … (株)アスリートプランニング バルシューレ東京設立  
2年間で300人くらい指導者を育てました。
- 2017年 … 子どものボールゲーム指導プログラム 奥田知靖 バルシューレ 創文企画  
もしよかったら買ってください。故木村真知子先生の本は絶版になりました。



これが小谷村での活動の写真です。地方創世の予算で呼ばれて行きました。ちびっこからお年寄りまで総勢 100 人。この他にも、我々社員が運営している教室が数か所あります。幕張にあるゾゾパークでは毎週木曜日にバルシューレをやっています。この写真は浅草のロックスですね。毎週月曜の午後 3 時から実施しています。また千葉のチーム。横浜、群馬にそれぞれ独自で活動しています。

面白いのは、本屋さんなのですが、本が売れないからバルシューレやりますという、島根にある今井書店さん。

守屋：やめて、ですか？

福士氏：本屋を縮小して、ですね。

あと Jリーグさんですと、松本山雅さんが 4 月から開講します。指導者講習を頼まれているのは愛媛 FC で、5 月の連休になりそうです。

また保育園の例では、千葉にある九重幼稚園さんは、先生全員がバルシューレの指導者資格を取っています。日ごろの活動の中でバルシューレをやっていて、研究材料として体力測定なんかも行ったりしています。港区は小学校の体育にバルシューレを導入したいと積極的で、来週、港区の先生たちに指導者講習会を行います。学童（保育）への導入についても問い合わせがあります。

東福岡に障がい者のデイサービス「あしたのつばさ」というのがありますが、ここは職員全員が指導者資格をとられて、自分たちでバルシューレをアレンジしながら、子どもたちと遊んでいきたいという意向があります。

高齢者の介護施設でも導入されています。写真は私の所属先のグループの施設ですけど、椅子に座りながらも、かごに向かってボールを投げるとか、遊具に向かってボールを通すといった運動をとりいれています。高齢者の場合、身体の動きが制限される前に、予防としてバルシューレのような運動をするということが一番大事なんじゃないかなと思っています。

おかげさまで平成 29 年度は、学校における体育スポーツ資質向上等推進事業となり、スポーツ庁から予算をもらって関わりました。この予算を使って九重幼稚園で体力測定をしたりしています。DVD を作成して教育委員会に配布してバルシューレを取り入れてもらおうという企画は、3 月 10 日の納期に無事間に合いました。



## 9. 体力測定方法（動画）

体力測定というと、パワー系の身体能力測定が一般的ですが、それでは測れない運動要素が球技の中に存在します。判断力などですが、これを測定する研究をしていきたいなど、筑波大学の木塚先生のチームと色々と新しいテスト方法をあみ出しているところです。

(動画)

ボタンを押すと色のランプがつけます。その色のランプに向かって蹴る。反応速度。これは反応して蹴るバージョンです。(次の画像)これは反応して投げるバージョンで幼稚園の年長さんが実施しています。

(動画)

これは黒い球が来たら避ける。カラーボールが来たら下にあるパネルのところに移動しなさいというものです。大人がやってもよさそうですね。このような方法によって、従来の体力測定では測れなかった能力があるだろうと考えます。この能力は、従来の体力測定的能力とは相関性がないほうが好ましい。つまり相関性がない方が、個人の持つ能力はそれぞれ異なり、人によってはこんな力を持っていることが示せると思うのです。ただ従来の体力測定で数値が高い人だけがトップレベルというわけでないことを証明していかなければいけないですね。



## 10. 中国展開

こうした日本での活動をホームページで見た中国の方からアプローチがきました。中国、広州ですね。スポニア (SPONIA) という企業です。31歳の社長です。社員はみんな20代。働いている社員がみなBMWに乗っていてびっくりしました。それぐらい強烈なパワーを持っている。日本の教育を物真似していますが、中国は早期教育に走りすぎていて、自分の子がほかの子より優れていることを証明したいようにも見えます。

スポニア自体は元々サッカースクールから発祥していて、チーム名は忘れてしまいましたが、イングランドのサッカーチームの指導者より講習を受けたうえで、プログラムを作って中国に展開しています。2年間で2,000人くらい、そのメソッドを使って指導者を育て、その企業がルーキーズというチームを作ってそこでバルシューレをやります。日本からの指導者3名とスポニアの関係者4名の指導者講習を現地でやってきました。通訳付きです。イベントをやると大変盛り上がります。この体験会を今年の1月にやってきました。今年中にあと2店舗か3店舗展開する計画ということで、指導者を育てなければいけない事情があります。このため今年の5月にはドイツからもバルシューレ指導者がきますが、私も指導にいく予定です。

(広州の様子写真の紹介)・・・

スタジアム、広州タワー、飲食、人の様子・・・活気があった。



## 11. まとめ

色々な世代の人が交わるひとつのツールになるかなと思います。そもそもドイツも、トップアスリートの育成とはうたっていません。目標は健全な街づくり。健康な体を作りましょう。小さいうちに運動習慣付けて、一生運動できるように。そのためにバルシューレ使いましょう。

目標は、目指せ3世代ボール遊びです。つまり幼稚園、保育園、小学校へ導入。両親、おじいちゃん、おばあちゃんの参加。家族での楽しい話題。

(スライド)

ということでご清聴ありがとうございました。

## 12. 質疑応答

参加者：ドイツの学校教育の中にバルシューレがはいっているのですか？

福士：正確に言うとは入っていないです。小学生がどういう活動をしているかという、体育の授業がある所とない所と色々あるんですね。州によって規則が違うので、学校の時間帯スタイルもまちまち。学校に体育施設がない。近隣のスポーツ施設に運動しに行くとか小規模な体育館に行くとか、課外授業的にサポートしています。

参加者：営利目的に広めていこうと思っていないのですか？

福士：直営でやっていたところは完全に営利です。指導者講習会を受けて、我々アスリートプランニングという会社と加盟店契約していただくとロゴを使っていいですよとか。開校までのお手伝いしますよとか。そんなサポートはさせていただいています。ハードルは低いのでよろしくおねがいします。初年度登録費として5万円いただいています。あとはいらないです。2年目から教室運営が落ち着いた時からロイヤリティくださいね。売り上げの5%という制度です。あとはボール買ってくださいとか。

参加者：小学校のタレント発掘、競技特性がわかるのですか？

福士：タレント発掘事業をドイツではやっていたのです。イベントをやっている子はこっちへ行った方がいいよとか。テレビ放映つけてやっていた時があるのです。結局専門家を育てなくてはいけません。何百人という子供を見極める指導者がいないこともあり中断しています。一応アドバイスはして、今いるクラブよりももう一つ上のレベルに上げてあげるとか。そういった活動はしていました。2年ぐらいやっていたのですが、見極めは非常に難しいので。

参加者：筑波大学の研究とバルシューレの関係はどういうことですか？

福士：基礎体力、身体力測定で測れないものを見極めようということです。動画でみると、判断力、

そういうものとの相関性はどうかということ。バルシューレをやることによってどっちがどうなるのか？そういう比較をしていく。

参加者：その結果は出たのですか？

福士：まだサンプルケースが少ないので、結果がでるまでには結びついていない。

守屋：幼稚園や保育園に行くのはすごくいいことですが、ライバルってあるのですか？バルシューレじゃない運動は。

福士：いっぱいありますね。でも大切なことは「子どもたちに遊ぶ環境がある」ということで、そうであればバルシューレはなくてもいいのです。遊ぶ環境がないので大人が提供してあげている。本来なら大人が関与しないで遊んでもらうことができれば万歳です。つまりバルシューレ万歳ではない。遊びが大事ですよと言っていますが、バルシューレは大人が提供する遊びであって、子どもによる自発的な遊びではないじゃないですよ。本来ならば、子どもはバルシューレを含めて大人が提供した場じゃないところで遊ぶべきで、それが理想だと思っています。

参加者：大人の日常運動のバリューとして導入としての日本の戦略は？楽しいけれど毎週やるのですか？お考えになられていることを。

福士：年齢層の高い人たち向けにはこれからやっといこうと思っていますが、1年間続けられるのかと言ったらなかなか難しいので2か月間くらい。8週プログラムでやっといこうかなど。やりたい人は更新していけばいいし、やらなければ次のやりたい人たちに参加してもらうようにしています。

参加者：球技へのきっかけとかになりますか。高齢者たちも含めて。

福士：高齢者の場合、意外に今の若い子たちより運動能力が良いです。私は子どもを教えるよりそっちをやりたいなと思っていますが、自分たちが若いころ身に付けてきたものって忘れていないのです。バルシューレをすることによって思い出してきて、またやりたくなるとか。新しいことをするためのきっかけになるので、今までバレーやっていました、バスケットやっていましたという人が、今度は足を使ってサッカーやってみようか、などというきっかけになる可能性があります。

中塚：1998年に開発されたとおっしゃいましたよね。ちょうど日本の学習指導要領で「体ほぐし」が導入された時期と重なります。日本でもドイツでも子どもが自分たちで遊ばなくなったという背景としては同じなのだなという感想を持ちました。

福士：あと、日本ではなるべく当たっても痛くないボールを使いますが、ドイツは固いボールを使います。バスケットボールの小さいようなものを普通に使っています。そういう違いはあります。ドイツの指導者講習会ではディスカッションに時間をかけます。例えば「指導していて能力が伸びるときはいいが、伸び悩んでいる時にどうやってあげるのかを説明しなさい」ということを議論する。何が正しいとかはないのですが、あなたならどうするか、ということ。落ちた時の理由。それが家族、友達、学校の時、それぞれどうしますか、というのを指導者講習会でやりました。あとはバルシューレの基本的なプログラムの紹介をして、あなたの種目だったらどうやって展開させますかという指導者講習会でした。すべてを提示してあげない。あなたはどうか。そこが日本の講習会と違う。特にミニバルシューレのときに道具を使って何か物語を作るというテーマを与えられるので、それでサーキットトレーニングを作りなさいという講習もありました。日本ではレポートや筆記試験をやりますが、ドイツではありません。受けたら合格。実技は長い。ミニで4時間。バルシューレで4時間。

なんとなくバルシューレわかっていただけましたか？ すべてをお伝えするのはなかなか難しいのですが。どうもありがとうございました。(拍手)

以上